古今類聚越前國志

四

和書門
二九二六七 號
一一六 函
六 架
七 冊
類

内閣文庫
和書 類
二九二七七 號
七 冊
三 架
函

内 一〇九八一號

内閣文庫
番號	和	29267
冊數	7 (4)	
函號	175	50

共七

国立公文書館
National Archives of Japan

古今類聚越前國誌巻之四

内一〇九八一號

神社

敦賀郡

延喜式神名下

越前國一百廾六座 大八座 小百十八座

敦賀郡四十三座 大七座 小卅六座

氣比神社七座 並名神大
加比留神社

劔神社
丹生神社

田結神社
久豆彌神社

野坂神社
志比前神社

角鹿神社
和志前神社
金前神社
阿蘓村利椋神社
横椋神社
横山神社
質覇村峯神社
高岡神社
鹿蒜田口神社
織田神社

大椋神社
市振神社
五幡神社
白城神社
伊多伎夜神社
伊部盤座神社
鹿蒜神社
大神下前神社
石田神社
三前神社

天八百萬比咩神社　天利劔神社
天比女若御子神社　伊佐奈彦神社
天國津彦神社　天國比咩神社
天鈴神社　玉佐〻良彦神社
信露貴彦神社
氣比神社　或笥飯ニ作ル又飼飯ニ作ル飼飯ハ但海ニノミ用テ神社ニ用タルヲ見ス　飼飯海ノ東南ニ在テ祭ル神保食神及仲哀天皇神功皇后
古事記曰帯中日子天皇仲哀云〻　故建内宿祢命率其太子為将禊而経歴淡海及若狭國之時於高志

前之角鹿造假宮而坐尒坐其地伊奢沙和氣大神
之命於夜夢云以吾名欲易御子之御名尒言祷白
之恐隨命易奉亦其神詔明日之旦應幸於濱献易
名之幣故其旦幸行濱之時毀鼻入鹿魚既依一浦
於是御子令白于神云於我給御食之魚故亦稱其
御名号御食津大神故於今謂氣比大神也亦其入
鹿魚之鼻血是故号其浦謂血浦今謂都奴賀也
日本書紀曰足仲彦天皇仲哀日本武尊第二子也母
皇后曰兩道入姫命活目入彦五十狭茅天皇之女
也天皇容姿端正身長十尺稚足彦天皇四十八年

立為太子時年三十一稚足彦天皇無男故立為嗣六十
年天皇崩明年秋九月壬辰朔丁酉葬于倭國狭城
盾列陵元年春正月庚寅朔庚子太子即天皇位云
々二年春正月甲寅朔甲子立氣長足姫尊為皇后
云々二月幸角鹿即興行宮而居之是謂笥飯宮云
々天皇於是將討熊襲國則自德勒津發之浮海而
幸穴門即日使遣角鹿勅皇后曰使従其津発逢於
穴門夏六月天皇泊于豊浦津且皇后従角鹿発而
行之到停田門云
又氣長足姫尊神后紀曰十三年二月命武内宿祢従

太子令拜角鹿笥飯大神云〻太子至自角鹿
又高天原廣野姫天皇（持統）紀曰六年九月越前國司
獻白蛾云〻詔曰獲白蛾於角鹿郡浦上之濱故增
封笥飯二十戸通前
続日本紀高野天皇（称徳）紀曰宝亀元年八月遣神祇
員外少史正七位上中臣葛野連飯麻呂奉幣帛於
越前國氣比神能登國氣多神
又天宗高紹天皇（光仁）紀曰宝亀七年九月始置越前
國氣比神宮司准從八位官
日本後紀桓武天皇紀曰延暦十二年二月下越前

國符偁宮司大中臣魚取解偁討祖穀須勘納神庫
充用祭料而國吏徵納官庫充用他色臨彼祭時不
肎下行度々祭事由其闕怠望請勘納神庫充用祭
料謹請官裁者右大臣宣依請
再按スルニ此文指ス所ナシトヘトモ類聚三
代格ノ文ニ拠ルニ氣比神ナル事明ラカナリ
其文下ニ見ユ
又曰延暦二十三年六月制常陸國鹿島神社越前
國氣比神社能登國氣多神社豊前國八幡神社等
宮司人懐競望各称譜第自今以後神祇官撿旧記

簡氏中堤事者補神宮
続日本後紀仁明天皇紀曰承和二年二月坐越前
國正三位勲一等氣比大神祝祢宜准鹿島能登両
大神祝祢宜以令把笏
又曰承和六年二月播磨國印南郡佐突駅家依旧
建立越前國氣比太神宮雑務傳預國司隷神祇官
又曰承和六年八月勅太宰大貳従四位上南淵朝
臣永河等得今月十四日飛駅所奏遣唐録事大神
宗雄送太宰府牒状知大唐三箇船嫌本舶之不完
倩駕楚州新羅船九艘傍新羅南以帰朝具苐六船
宗雄所駕是也餘八ヶ船或隠或見前後相失未有
到着難虞之変不可不備宜毎方面戒防人不絶炬
火贏貯糧水令後着船共得安穏具宗雄等安置客
館得待船是日令十五大寺読経祈願以船到着为
修法之終遣神祇少副大中臣朝臣磯守少祐正七
位上中臣朝臣穉守奉幣帛於摂津國住吉神越前
國氣比神並祈舩帰着
又曰承和六年十二月奉授越前國正三位勲一等
氣比大神従二位餘如故
再按スルニ令義解曰令曰凡位田一品八十町二

品六十町三品五十町四品卅町正一位八十町
從一位七十四町正二位六十町從二位五十四
町正三位卅町從三位卅四町正四位廿四町從
四位廿町正五位十二町從五位八町女減三分
之一謂此依町減不至段歩也蓋此例ニ因テ神社ニ位田ヲ
寄スルナルヘシ然ラサレハ天神帝王ニ位階
ヲ授ル事謂レナシ近世位田ノ説ヲ取ラサル
人アルハ誤ナリ
又曰承和七年九月奉授越前國從二位勲一等氣
比大神之御子無位天利劔神天比女若御子神天
伊佐奈彦神並從五位下
文徳実録仁明天皇紀曰嘉祥三年冬十月進大和
國大和大國魂神階授從二位云々越前國氣比神
正二位
又文徳天皇紀曰仁寿二年八月遣使者向越前國
氣比神宮奉幣
又曰齋衡二年夏五月詔越前国氣比大神御子神
宮寺置常住僧聽度五人心願住者亦五人凡一十
僧永々不絶
三代実録清和天皇紀曰貞觀元年正月京畿七道

諸神進階云〻越前國正二位勲一等氣比神従一
位云〻
又曰貞観元年二月詔越前國司写大般若経一部
安置氣比神宮寺
又曰貞観元年六月遣使諸社奉神宝幣帛云〻神
祇大祐正六位上大中臣朝臣豊雄为氣比氣多両
社使云〻
又陽成天皇紀曰元慶二年二月越前國言氣比大
神宮祝部等申曰神宮忽見火災驚走入宮実無失
火陰陽寮占曰为穢神社因現祟恠彼國須慎疫癘

風水之災是日下知國宰洒掃神宮轉読佛経
又曰元慶六年九月太政大臣處分越前國氣比神
宮封租穀勘納神庫宛祭祀費國宰官司相知出納
又停國司究神封戸百姓於他役焉
類聚三代格神社事條曰太政官符應収納神庫宛
用祭料氣比神宮封租穀事右得神祇官解偁彼神
宮司大中臣安根解偁撿案内太政官去延暦十二
年二月廿七日下越前國符偁官司大中臣魚取解
偁封租穀須勘納神庫宛用祭料而國更徴納官庫
宛用他色臨彼祭時不肯下行度〻祭事由其闕怠

望請勘納神庫充用祭料謹請官裁者右大臣宣依請國依符旨行来既尚矣而去弘仁元年外橘朝臣永継与宮司有意相争專任國行自今以後積習為例充用遠郡運漕之間殆過祭期神事疎略大概在茲貢神之物豈可如此望請徴納神庫以省申請之煩者官検案内件租穀專盡神用不充他色然則納於官庫還無公益納於神庫尤有便宜望請重仰國宰拠准旧例徴納神庫以充祭料謹請官裁者右大臣宣依請但至于出納件物國司宮司相共行之元慶八年九月九日

又曰太政官符應停止分神封郷寄神宮寺事右得神祇官解偁越前國正一位勲一等氣比大神宮同中臣清貞解偁撿旧例太政官去齊衡三年四月七日下國符偁寺別當与神宮司共可勧知封物出納者自尒以降相共勘知先納神宮後分寺家是宮司之処分非國宰之所行而國去九月二日送神宮寺移云依別當僧平鎮牒状分足羽郡野田村封郷為神宮寺料者官禄無例之状副郡司祢宜祝等申文再三移送而曾無封移又未改行因茲平鎮等入接封郷徴妨調物供神之物先為僧侶之食役社之

華還称寺家之人國宰所行宮司難制望請官裁被
停分卿但宮司依例總納封物供神之後隨色須行
者中納言兼右近衛大將從三位春宮大夫藤原朝
臣時平宣奉勅依請寛平五年十二月九日
延喜式神祇三曰名神祭二百八十五座云々氣比
神社七座大虫神社一座（以上越前國）
又曰凡諸神宮司祢宜季祿者伊勢太神宮祢宜准
從七位官度會宮祢宜准從八位官（並以神郡税給之）下總
國香取神宮司常陸國鹿島神宮司越前國氣比神
宮寺並准從八位官（並以封戸物充之）能登國氣多神宮司
准少初位官（以神封給之）
又式部上解由式曰凡諸司諸國進解由者諸司長
官六十日次官以下及史生卅日為限諸國長官百
廿日任用六十日為限但長官任用同時解任者交
替了後与長官共言上其与不之状其諸國除裝束
行程之日若任他司者依任日始計限内聽釐務其
季祿位祿皆依給例亦聽預諸節會若限滿未得解
由者具状申官其伊勢太神宮豊前宇佐宮越前氣
比神宮司諸神主亦責解由但遥任及陰陽大学典
藥等諸博士諸司不預公文之類並不責解由

又雜式曰凡越前國松原客館令氣比神宮司撿挍
再按スルニ松原客館ハ蓋敦賀湊ノ西ニ在松林
ニ在シナルヘシ是ヲ一夜松原ト云事ハ地名
部ニ見ユ古此所ニ官倉アリテ穀ヲ貯ヘシ吏
類聚三代格及日本後紀等ノ載スル所ノ弘仁
十三年太政官符ノ文税祖部ニ詳ラカナリ
神殿拜殿神門南面勅額アリ一ノ華表ハ西南ナ
リ祝子ノ傳フル所氣比大明神ハ保食神ニテ神
代ヨリ鎮坐在シニ仲哀天皇ヲ配祭スト云當時
社領百石祝部十二家四位ニ叙スル者アリト云

圖書局文庫

毎年八月朔日ヲ以テ祭日トシ新ニ行宮ヲ営ム
神輿ヲ遷シ一旬ノ中晴日二日ヲ以テ俴山俴営
ヲ造リ古名將ヲ偶人ニ作リ真ノ甲冑劔戟馬具
ヲ飾リ松樹及旌旗ヲ建テ楼車ニ載セ市中ヨリ
神官ニ至ル名ケテ山鉾ト云是往古ヨリ傳ハル
神事ト云近年ニ及ヒ敦賀ノ冨商相競テ山鉾数
十ヲ出シ是繁華ナリ此時一夜松原ノ樹ヲ擅ニ
伐リ出スト云又遊行上人四國ノ時敦賀西方寺
ニ滞留シテ本國及近江國ヨリ時宗ノ僧徒ヲ集
メ上人衆徒ト共ニ自ラ簀ヲ荷ヒ氣比ノ社前ニ

砂ヲ運テ道ヲ治ル故事アリ是ヲ遊行砂持ト云
始ニ祖遊行上人四國ノ時西方寺ヲ開キ氣比宮
ニ日参ス時神上人ニ託シテ社地ヲ隔テシ江水
ヲ壅カシメ直チニ神宮ニ至ラシム是ヨリ此事
アリト云
平家物語ニ木曽義仲倶利迦羅ノ戦ニ勝テ氣比
社ニ榛原ノ庄ヲ献セシ事アリ
太平記ニ氣比大宮司カ事アリ故蹟及人物部ニ
載ス
郡ノ東南刀祢坂ニ又氣比社アリ仲哀天皇ヲ祭
ルト云又丹生郡氣比莊ニ氣比明神ノ社アリ古
氣比神領ノ莊ナルカ後ノ考ヲ俟ツ
加比留神社　鹿蒜神社　鹿蒜田口神社ハ共ニ
社地ヲ詳ニセス敦賀ノ北五幡山ノ西南ニ帰山
アリ又南條郡今莊駅ノ南ニ帰山帰村アリ蓋此
間ニアリシニヤ
劔神社　織田神社　今丹生郡ニ織田明神アリ
一名劔大明神ト云蓋古両社ニシテ後ニ併セラ
一社ニ祭リ其名遂ニ混スルカ然レトモ式ニ本
郡ニ載テ今丹生郡ニ在豈後世移シ祭ルカ疑フ

ヘシ
續日本紀天宗高紹天皇(光仁)紀曰宝亀二年冬十月
詔充越前國従四位下勲六等劔神食封廿戸田二
町 再按スルニ劔本叙ニ作ル蓋字似タルニ因テ誤ル
三代実録清和天皇紀曰貞観元年正月越前國従
四位上勲六等推前神勲六等劔神並正四位下 再按
スルニ上ノ文ニ因レハ従四位上従四位下何レカ誤ル
丹生神社　伊部磐座神社　今丹生郡ニ丹生郷
村アリ同郡越知山ノ東南ニ細野嵓倉アリ　亦本
郡ト隔遠ナリ

田結神社　氣比社ノ北ニ田結浦アリ
久豆弥神社　氣比社ノ西南沓見村アリ
野坂神社　沓見村ノ南ニ野坂村アリ
角鹿神社　角鹿ハ即今ノ敦賀ナリ氣比社本社
ノ東ニ敦賀氣比政所ト云社アリ西面ス名勝志
ニ氣比政所角鹿ノ人ナリト云蓋日本紀ニ載ス
ル所ノ垂仁天皇二年任那國ヨリ笥飯浦ニ至リ
シ角鹿人ノ事ナルヘシ又旧事紀國造本紀曰角
鹿國造志賀高穴穗朝(成務)吉備臣祖若武彦命孫建
功狹日命定賜國造恐ラクハ建功狹日命ヲ祭ル

カ又角鹿人ヲ祭ルカ後ノ考ヲ俟ツ

大椋神社　今考フル事ヲ得ス
三代実録陽成天皇紀曰元慶四年九月授越前國
従四位上大椋神正四位下

金前神社　氣比社ノ北ニ金カ崎アリ

五幡神社　金カ崎ノ東北五幡山ノ下ニ在碑ア
リ銘ニ曰五幡神社今不存僅餘其旧趾耳特所在
則八幡祠也安永中酒井侯即其旧趾新造殿宇安
神位云

阿蘓村利椋神社　五幡山ト西阿曽村ノ北嶺上
ニ在松樹両株ヲ神主トス

三前神社　敦賀港ノ西北ニ立石岬アリ蓋洲嘴
ニ在シナルヘシ

石田神社　今丹生郡ニ石田村アリ亦本郡ト隔
遠ナリ

天八百萬比咩神社　天國津彦神社　天國比咩
神社　天鈴神社　玉佐ニ良彦神社　信露貴彦
神社　共ニ今考ル事ヲ得ス但信露貴彦神今立
郡ニ白鬼女川アリ和訓稍近シトイヘトモ其他隔
絶シテ疑ハシ

文徳実録文徳天皇紀曰斎衡三年九月越前國天八百萬比咩神天國津比咩神天國津彦神天鈴神玉佐々良彦神信露貴彦神等並預官社云々授越前國天八百萬比咩神従四位下天國津比咩神天國津彦神天鈴神玉佐々良彦神信露貴彦神並授従五位下

天利劔神社　天比女若御子神社　伊佐奈彦神社共ニ上氣比神社ノ條ニ見ユ

志比前神社　和志前神社　市振神社　白城神社　横椋神社　伊多伎夜神社　横山神社　質

覇村峯神社　高岡神社　大神下前神社　共ニ考ル事ヲ得ス以上延喜式

常宮権現　飼飯海ノ西ニ在祭神々功皇后社領三千石社僧数坊アリ毎年六月上卯ヲ祭日トス氣比ノ社人祭事ニ預リ舟船往来シテ頗華麗ナリ敦賀ヨリ海上一里ヲ隔ツ又往古海中ヨリ上リシ古鐘アリ銘又分明ナラストイヘトモ其古雅ナル事人間ノ物ニ非ス

丹生郡

延喜式神名下

丹生郡十四座 大一座 小十三座

兄子神社　雨夜神社

大虫神社 名神大　斗布神社

長岡神社　麻氣神社

牧井手神社　大山御板神社

佐々牟志神社四座　小虫神社

雷神社

兄子神社 今南條郡ニ属シテ日野山ニ在名勝志ニ日野山権現ハ延喜式兄子神社安閑宣化ニ帝ヲ祭ルト云

今按スルニ南條郡ハ本丹生郡ヨリ分チ置所ナリ日野山國府ノ東南ニ在日永嶽トモ云國花万葉記ニ日野山権現ハ伊綱ヲ祀ト云 合類節用集 飯綱権現 信州戸隠嶺 越前日永嶽 武州高屋山鎮坐 社領三十石天正ノ賊火ニ焼カル

雨夜神社 足羽記曰今南條郡天吾森是也是茨田連之神灵也

今按スルニ旧事紀継體天皇紀曰納八妃云々

次茨田連小望女曰関媛茨田連ハ是ナルヘシ
続日本紀天宗高紹天皇光仁紀曰宝亀五年三月叙
越前國丹生郡雨夜神従五位下
又今皇帝桓武紀曰延暦十年四月叙越前國雨夜神
大虫神並従五位下
大虫神社　今東西大虫ノ二村アリ
続日本紀曰宝亀十一年十二月越前國丹生郡大
虫神越中國射水郡二上神礪波郡高瀬神並叙従
五位下
又曰延暦十年四月庚子叙越前國雨夜神大虫神

並従五位下乙巳叙従五位下大虫神従四位下同
國足羽神従五位下
麻氣神社　今南條郡ニ牧谷村アリ足羽記ニ説
アレトモ疑ハシ
佐々牟志神社四座　今本郡ニ佐々生村アリ
小虫神社　今大虫村ニ東西アリ蓋其間ナルヘ
シ
続日本紀曰宝亀十一年越前國丹生郡小虫神為
幣社焉
雷神社　神代鎮座傳ニ越前國丹生郡雷神社ア

リ今按スルニ本郡志津荘大森加茂明神アリ蓋所謂別當ノ神ナルヘシ勅額ニ下上加茂大明神トアリ是志津荘七ケ村ノ總社祝廣部宮内カ家ニ古記アリシカ天正ノ賊火ニ焼失セリ

斗布神社　長岡神社　牧井手神社　大山御板神社　共ニ今考ル事ヲ得ス以上延喜式

越知権現　本郡ノ西越知山ノ上ニ在養老二年僧泰澄此山ヲ開キ自三社ノ神体ヲ刻テ三峯ニ安置ス社領五十石歴代ノ國司山林ヲ寄附ス別當大谷寺山下ニ在毎年三月四日柴燈護摩ノ神事アリ

織田明神　越知山ノ東南ニ在正一位劔大明神ト云事上敦賀郡ノ條ニ見ユ天正賊火ノ後織田信長再建ス社領五十石祝二十五家アリテ其中ヨリ二人祭主トナル其人弱冠ヨリ一人ハ白髪ヲ生シ一人ハ黒鬚ヲ生スト云又社僧多シ其貫首ヲ神前院ト云社地ノ上ニテ甕ヲ焼ク堅牢ナリ是ヲ織田甕ト称ス

牛頭天王祠　郡ノ中央田中村ニ在本社ノ左ニ

蘇民将来宮アリ本社ノ右ニ猿田彦命天鈿女宮
有社領二十三石余祝高橋出雲ト云天正二年織
田氏ニ焼カル是ヨリ先應永四年飛鳥井中納言
雅縁致仕ノ後此社ニ一七日参籠ノ事アリ
今按スルニ雅縁卿本此村ニ生レシ故此社ニ
参籠ノ事アリト名勝志ニ見ヘタリ
氣比明神祠 田中村ノ東氣比荘ニ在朝倉氏神
領ヲ寄附スト云今廃セリ
南條郡
大鹽八幡宮 今宿駅ノ西國兼村大塩谷ニ在社
領五十石祝氏生石見ト云神殿鐘樓華表等紀州
家ノ造立ト云
今立郡
延喜式神名下
今立郡十四座 並小
帆山神社　國中神社二座
石部神社　岡太神社
須波阿須疑神社三座
丹津神社　刀那神社
小山田神社　鵜甘神社

加多志波神社　　敷山神社

帆山神社　郡ノ西ニ帆山村アリ

國中神社　行司嶽ノ東中津山村ニ在足羽記ヲ考ルニ中津山ハ國ノ中央ナル故ニ此号アリト云

丹津神社　倭名鈔ニ今立郡船津郷アリ蓋丹ハ舟ノ字ノ誤ニテ今鯖江ノ舟津明神是ナルヘシ

刀那神社　足羽記ニ郡ノ北尾花村三社共是ナリ祭神茨田皇女ナリト云其據所ヲ知ラス

石部神社　岡太神社　須波阿須疑神社　小山田神社　鵜甘神社　加多志波神社　敷山神社共ニ考ル事ヲ得ス以上延喜式

兒権現祠　粟田部ノ東山上ニ在粟田部郷ノ總社銅ノ華表アリ

朽飯村八幡宮　兒権現山ノ北ニ在蒲生御曹司ヲ祭ルト云

池田稲荷祠　池田郷稲荷村ニ在大社ナリ

溝落神明宮　郡ノ西北鳥羽村ノ西ニ在社地東西五百七十歩南北六百九十歩末社多シ社領五十石祝氏生左京

足羽郡

延喜式神名下

足羽郡十三座 並小

杉社郡神社　土輪神社
直野神社　麻氣神社
登知為神社　推前神社
与須奈神社　山方神社
御門神社　分神社
神傍神社　於神社
足羽神社

杉社郡神社　名勝志ニ今福井ノ東勝見村ニ在ル白鬚明神ナリト云具據アラ知ラス

直野神社　足羽記ニ今郡ノ西南々居村ニ在ト云

分神社　今郡ノ中央ニ東郷服村アリ

推前神社　足羽記ニ今吉田郡ニ志比境村アリ蓋其地ナランカト云 再按スルニ推椎字似テ誤レリ
三代実録清和天皇紀曰貞観元年正月京畿七道諸神進階及新叙云々越前國従四位上勲六等推前神勲六等叙神並正四位下

足羽神社　福井ニ南山上ニ在　祭ル神継體天皇

續日本紀今皇帝桓武紀曰延暦十年四月叙越前國
雨夜神大虫神云々同國足羽神従五位下
文徳實録曰仁壽元年春正月加越前國足羽神従
四位下
日本紀略曰天慶三年正月奉授越前國正四位上
足羽神従三位
足羽神社祭神五坐生井神福井神綱井神波比岐
神足羽神
延喜式神名上宮中神卅六座々摩巫祭神五座生
井神福井神社綱長井神波比祇神阿須波神

再按スルニ上ニ云所ハ乃是ナルヘシ福井神ハ
今ノ福井城中ノ福井ト云ヘル井アルヨシ具
地ニ在シ神ニヤ下總國ニモ阿須波神アリ
足羽社中ニ善住明神ト云アリ事ハ山川部ニ載
ス
土輪神社　麻氣神社　登知為神社　与須奈神
社　山方神社　御門神社　神傍神社　於神社
共ニ今考ル事ヲ得ス以上延喜式
廣端雄推神　郡ノ西北角折村ノ北ニ大瀬村ア
リ雄推神此地ナルヘシ角折君ヲ祭ルト足羽記

ニ云
三代実録清和天皇紀曰貞観二年八月越前國正六位上廣湍雄推神授従五位下

黒龍明神　足羽山ノ南ニ在名勝記ニ黒竜明神ハ本朝四隅ヲ守護スル四神ノ一ナリ所謂四隅ハ東ニ常陸國鹿島明神南ニ紀伊國熊野権現西ニ安藝國厳島明神北ニ越前國黒竜明神ナリ往古國家鎮護ノ為四隅ノ國ニ青黄赤白黒ノ竜神ヲ祭リ玉フ本國吉田郡黒竜川ハ北國第一ノ大河ナル故其水辺ニ水躰黒竜王ヲ祭リテ黒竜明神ト号ス中古坂井郡大口郷ニ移シ又此山ニ移スト云本ノ社地ハ吉田郡舟橋ノ西ニ在テ今其所ニ石ヲ建タリ大口郷ノ社跡ハ金津ノ東南河井田村ニ在初七時ノ祭アリシカ天正二年賊火ノ後廃スト云　下坂井郡毛谷神社并見ルヘシ

愛宕祠　足羽社ノ西南ニ在社領三十石別當ヲ松玄院ト云

弓箸祠　愛宕山ノ西ニ在事ハ山川部弓箸泉ノ條ニ載ス

北荘神明宮　福井城ノ北郭内ニ在祭ル神伊勢

両宮垂仁天皇ノ世太神宮伊勢國五十鈴川ノ辺ニ鎮座マシ〳〵テヨリ以来北荘三郷ヲ伊勢ノ神領収ム醍醐天皇延長二年三月九日詔ニ依リテ北荘ニ太神宮ヲ勧請ス此時勅使右大弁藤原親正神使久志本右衛門太夫廣次先ニ勢州世義寺ノ住僧良隆僧都神木幣帛神躰神宝等ヲ奉シテ此ニ至リ社壇ニ勧請シテ良隆僧都當社ノ別當トナル 名勝記ニ北庄ノ豪家ニ明光長者ト云者灵瑞ヲ蒙リ遂ニ天聴ニ達シ此事ニ及フト云

其後貞和二年丁亥朝倉孫右衛門廣景再建ス 朝倉始末記 三才図會ニ後土御門院延徳年中艸創トアレトモ是再建ノ年ナルヘシ越前黄門秀康卿ニ至テ先領ヲ尋テ社領百石ヲ寄附セラル別當ヲ寿福院祝ヲ牧田主水ト云

八幡宮 福井城西木町ニ在三才図會ニ永禄四年九月正親町帝ノ詔ニ依テ豊前國宇佐郡菱形山八幡大神ヲ此ニ勧請セリト云社領三十石別當ヲ養寿院祝ヲ渡部式部ト云

牛頭天王祠 城北天王町ニ在三才図會ニ光巌帝正慶二年託宣ニ依テ尾張國津島牛頭天王ヲ此ニ勧請スト云社領二十三石余別當ヲ医王寺

祝ヲ坪田和泉ト云　又城南木田ニモ牛頭天王
祠アリ別當ヲ金剛院ト云
木田天満宮　城南木田ニ在後四條帝仁治元年
北野天満宮ヲ勧請スト云
和田八幡宮　福井ノ東和田東村ニ在社領百石
越前宰相忠直卿ノ寄附別當ヲ三明院ト云
安波賀春日祠　郡ノ中央安波賀村ニ在朝倉氏
ノ鎮守末社唇取明神鹿島明神平岡明神伊勢太
神宮アリ　又山上ニ滝殿権現祠アリ社領五十
石祝ヲ吉田壹岐ト云　又朝倉氏ノ遠祖表米親
王ヨリ丹波國ニ祠リ傳フル赤淵大明神ヲ文明
三年五月一乗ノ城主ニ移スト云今其祠ナシ蓋
朝倉氏亡テ後其祠ヲ廃ス

大野郡

延喜式神名下
大野郡九座 並小

篠座神社　盤座神社
大槻盤座神社　椛神社
風速神社　坂門一事神社
高於盤座神社　國生大野神社

荒島神社

盤座神社 足羽記ニ本郡宮領村ニ在ト云

篠座神社 大野城ノ南篠倉村ニ在祭ル神鸕鷀草葺不合尊祝ヲ清水出雲ト云

椛神社 足羽記ニ今郡ノ西河原村具地ナリト云

坂門一事神社 郡ノ西坂戸村ニ在祭ル神坂田大跨王 継体天皇ノ妃廣媛ノ父ナリ

國生大野神社 大野城ノ東ニ在青竜権現是ナリト云社領三十石祝飯山氏社中ニ柏尾明神ノ祠アリ

荒島神社 大野城ノ東荒島山ニ在祭ル所棟梁ノ臣物部連事ハ山川部ニ載 物部麁鹿火大連継体紀ニ見エ

大槻盤座神社 風速神社 高於盤座神社 共ニ今考ル事ヲ得ス以上延喜式

白山明神 郡ノ東北白山ノ巓ニ在養老元年僧泰澄開ク処ナリ

元亨釈書神仙篇曰白山明神者伊弉諾尊也初泰澄法師棲越前州越知峯常望白山曰彼雪嶺必有灵神我當登彼乞顕応霊亀二年夢天女瓔珞厳身

出紫雲中曰灵感時至蚤可戾止養老元年四月一日澄往白山埜大野隈筥河東伊野原乃專心持誦時前所夢天女現身曰此地大德之母産織之所非結界之地此東林泉吾所遊止也師移彼言已形隱澄到彼持念如前天女又來曰我雖在天嶺恒遊此林此林為中居上護一人下撫萬民大德諦聽日本秋津島本是神國也國常立尊乃神代最初國主也云〻吾是伊弉諾尊也今号妙理大菩薩此神岳白嶺者我主國之時都城也我乃日域男女之元神也云〻吾真身在彼天嶺大德往見之言已天女乃隱

澄乃登白山天嶺絶頂居綠碧池側持誦專注忽九頭竜出池面澄曰是方便現體非本地真身持念弥確頃刻十一面觀自在菩薩妙相端嚴光彩赫爍澄稽首礼足白言像末衆生願垂救極于時菩薩搖金冠瞬蓮眼而許之拜不畢三妙体已隱澄又渡左澗上孤峯值一偉丈夫手握金箭肩横銀弓含笑曰我是妙理大菩薩之輔也名曰小白山大行事大德當知聖觀自在之变身也言已乃隱澄又昇右峯見一奇服老翁神宇閑雅語曰我是妙理大菩薩之弼也名曰大已貴西刹生也言已又隱自此灵感益顕著

也澄常語人曰妙理大菩薩曰我山中一草一木無
不我眷属之居所一万眷属妙德降迹千万金剛童
子遍吉垂化五万八千采女堅字女天之変作也
三代実録光孝天皇紀曰元慶八年三月僧正法印
大和尚位宗叡卒宗叡俗姓池上氏左京人也云々
于時叡山主神假口於人告曰汝之若行者将擁護
遠行則双烏相随暗夜則行火相照以此可為徵驗
厥後宗叡到越前國白山双烏飛随在於先後夜中
有火自然照路見者奇之久之移住東寺執少僧都実
恵受学金剛界大法詣少僧都真紹受阿闍梨位灌

頂自内藏寮給断物焉
延喜式神名下加賀國四十二座（並小）石川郡十座（並小）
白山比咩神社云々
文徳実録曰仁寿三年九月授加賀國白山比咩神
従三位
白山一宮大御前天嶺ニ在祭ル神伊弉冉尊（本地十一面観音泰澄ノ作後雷火ニ罹リテ平泉寺ヨリ再興スト云）二宮大巳貴権現天
嶺ノ北峯ニ在祭ル神伊弉諾尊（本地阿弥陀仏泰澄ノ作）三宮
別山大行事天嶺ノ南峯ニ在祭ル神素盞烏尊及
天忍穂耳尊（本地正観音）神代鎮坐傳曰正哉吾勝ニ速

日天忍穂耳尊加賀國石川郡白山別宮又曰菊理媛神加賀國石川郡白山比咩神社（今按スルニ別宮ハ即別山ナルヘシ菊理媛神日本紀神代上ニ見ヘタリ）四宮金劔宮加賀國鶴来村ニ在祭ル神天瓊々杵尊（本地不動尊）神代鎮坐傳曰天津彦々火瓊々杵尊加賀國白山別宮劔社五宮中宮御前加賀國尾添村ニ在祭ル神彦火々出見尊（本地薬師如来）神代鎮坐傳曰彦火々出見尊加賀國白山別宮加宝皇子祠六宮佐羅宮加州鶴来ヨリ本州牛首ニ至ル間ニ在祭ル神鸕鷀草葺不合尊（本地毘沙門天）七宮岩本宮加賀國別宮谷ニ在祭ル神高皇灵尊（本地如意輪観音）以上白山七社ト称ス別當平泉寺勝山ノ東南ニ在養老六年元正天皇詔アッテ白山ノ絶頂ニ三社ノ神殿ヲ造リ禁ニ中宮ヲ造リテ僧坊ヲ置キ平泉寺ト号ス（白山ノ禁一ノ瀬ノ西南十一里）歴朝社領ヲ寄附セラレテ九万貫ニ至ルト云寿永二年木曽義仲白山三峯ノ三社ヲ建ツ天正七年八月廿六日地獄谷ヨリ火石ヲ雨ラシ社壇及神躰ヲ破ル明年六月織田信長三社ヲ再建ス其後兼応三年前田家ノ造立アリ寛文二年越前少将光通又増修セラル平泉寺ノ中宮ハ天正二年四月

五日賊火ニ回禄ス十一年ニ至テ顕海法印中宮ノ御供殿ヲ再建ス十五年十月八日川上御前ノ神体ヲ女神川ノ辺ヨリ此ニ遷シテ神殿ヲ営ス慶長二年マテ十一年ノ間ニ一宮河上御前伊弉冊尊二宮大巳貴素盞烏尊三宮別山天忍穂耳尊四宮金劔天瓊々杵尊五宮加宝童子彦火々出見尊中宮国常立尊奥院高皇灵尊愛宕祠拝殿奉納所及僧堂薬師堂ヲ建ツ佛宇部并看ルヘシ

平家物語ニ木曽義仲倶梨迦羅ノ戦ニ勝テ能登ニ至リ白山祠ニ地ヲ献シ又奥州秀衡カ贈レル馬ヲ献セシ事アリ

注古白山ノ神事ニ三所張山トテ俵山ヲ作ル是冨民剃髪スル者山張役トテタクノ金銀ヲ出シテ作リシナリ此山張ヘキ分限ナキ者ハ誓詞ヲ書テ捧ルニ若虚言アレハ忽冥罰ヲ蒙ル朝倉貞景此事ヲ聞テ末世ニハ冨饒ノ民モ有ヘカラストテ張山役トテ過分ノ地ヲ寄附セラル今ニ至テ百姓ニ山役ナシト朝倉始末記ニ見ヘタリ又波多野玉泉坊飛鳥井宝光院ト争築シ石壁ノ残基今猶存ス方一丈八尺方四丈八尺ノ石アリ

勝山神明宮　城北ニ在勝山城主三十石餘ノ社
領ヲ寄附セラル別當天台宗與福寺ト云城東ニ
八幡宮アリ
石徹白春日祠　郡ノ東石徹白村ニ在社家多シ
本村ハ即其社頭ナリト云

坂井郡

延喜式神名下

坂井郡卅三座 並小

布久漏神社　坂名井神社
御前神社　都那高志神社
多祢神社　久米多神社
意加美神社　阿治波世神社
國神神社　井口神社
楊瀬神社　巳乃須美神社
片岸神社　大溝神社
比古奈神社　幣多神社
紀倍神社　枚岡神社
毛谷神社　柴神社
英多神社　鵜屎神社
伊伎神社　保曾呂伎神社

横山神社　　三國神社
石田神社　　味坂神社
高向神社　　笠間神社
家津神社　　大湊神社
綵前神社
布久漏神社　本郡横地村ニフクロチ堂ト云祠アリ今ハ八幡宮ヲ祭ル八月十四日ヲ祭日トス表兒米ト云故事アリ恐ラクハ是ナルヘシ
坂名井神社　足羽記ニ三國ノ南ニ在金井村也ト云ヘトモ信シ難シ

再按スルニ坂名井ハ即坂井ナルヘシナハ助語ニテ其例多シ延喜式坂井郡ニサカノ井ト旁訓スルニテ見ルヘシ今郡中境村アリ恐クハ其地ナルヘシ足羽記三國坂名井（日本紀継体紀名本）作中分注曰中世云那ノ文ニ泥ミテ金井ヲ牽強セルニヤ三國古ハ一國ナレハ（旧事紀國造本紀）今ノ坂井郡ハ闔郡三國ニ属セシモ亦知ヘカラス
御前神社　足羽記ニ宮前村春日祠ナリト云宮前ハ三國ノ東ニ在
多祢神社　足羽記ニ大味郷春日祠ナリト云其

説疑フヘシ
再按スルニ今九岡ノ東ニ種村アリ恐クハ其
地ナルヘシ
久米多神社　郡ノ東南久米田村ニ在祭ル所足
羽神棟梁ノ臣大伴金村大連ト云足羽記上ノ山ヲ
ミサヽキ山ト云何レノ陵ナル事ヲ知ラス
意加美神社　郡ノ西江上村金劔大明神是ナリ
ト云祭ル神金山彦神
文徳実録曰嘉祥三年十一月進越前國金山彦神
階加従四位下

國神神社　足羽記曰國神々社椀子皇子神霊而
在國兼村國兼國神之誤也其原廟今在九岡石城
戸町是也
今按スルニ此説ニ拠レハ今ノ南條郡國兼村
大塩八幡宮ナリ然レ共延喜式坂井郡ニ載ル
ヲ以考ルニ國神ハ恐クハ地名ニハアラシ神
号ナルヘシ今九岡ノ神明乃上古ノ國神々社
ナルヘシ其社本九岡山上ニ在椀子皇子ヲ祭
ルニ依テ椀子岡ト云ルヲ中畧シテ九岡ト号
スルナルヘシ
椀子皇子ハ継体天皇ノ皇子三国公ノ祖也事ハ三国ノ條ニ載ス

口碑ニ皇子此岡ニ生レ玉ヒ胞衣ヲ埋メシ処
ト云天正四年ニ至テ柴田伊賀守勝豊丸岡ノ
城ヲ築ク時當社ヲ山ノ南ニ遷シ神領若干ヲ
寄附ス、今ニ至テ退轉ナシ別當宝積院五十石
ヲ寄附ス當社ニ天國宝劔アリ皇子ノ佩ル劔
ナリト云

已乃須美神社　足羽記曰社地今淪成淵矣淵下
有中角村具拠ル所ヲ知ラス

片岸神社　三國ノ南ニ山岸村アリ

大溝神社　足羽記曰本郡溝江郷馬場村春日祠
是ナリ金津北ニ在溝江郷七ヶ村ノ總社ナリ

幣多神社　和漢三才図會曰越前坂井郡幣多神
社祭神猿田命垂跡光仁天皇天應元年始建云、
今具所ヲ詳ニセス

紀倍神社　今郡中ニ本部郷アリ社地詳ナラス

毛谷神社　足羽記曰今足羽郡黒竜延喜式所載
之坂井郡毛谷神社是也中古有故改祭當郷桜井
之山上今具莘曰毛谷黒竜祠上ニ見エ未是非ヲ知ラス

紫神社　足羽記ニ吉田郡紫原郷ナリト云

英田神社　足羽記ニ今ノ布施田村ニテ祭ル神

継體天皇四世孫難波王之神灵ナリト云

鵜庲神社　三國ノ南河碕村ノ水岸ニ鵜堂アリ
蓋是ナルヘシ

保曽呂伎神社　郡ノ北細呂木郷沢村ノ山上ニ
在祭ル神春日明神八幡太神宮本社縁起ニ和銅
七年僧泰澄神童ノ託ニ依テ天兒屋根命ノ像ヲ
自彫シテ此ニ祭ル其後寛弘八年川口荘ノ人徳
丸ノ一男御佐碕ト云者大和ノ春日ニ神領百石
ヲ寄進ス保元二年勅使中納言時實與福寺伊豫
法眼ヲ以神田ヲ當社ニ寄附セラル此時僧院人
十社人四百八十人八月十七日ヲ祭日トス川口
荘十七村ノ總社ナリ其後朝倉氏世々崇信ス天
正二年ノ賊火ニ回禄スト云別當高應山神宮寺
開山南都與福寺ノ頼佑僧都ナリ事ハ佛宇部ニ
載ス

横山神社　郡ノ北坪江郷ニ横山明神アリ

三國神社　今三國湊ニ日吉山王祠アリ四月上
申ヲ祭日トス頗繁華ナリ又牛頭天王祠アリ又
三國ノ西北滝谷村ニ神明宮アリ三國神社何レ
カ詳ナラス三國ノ事ハ舊地部ニ出ス

高向神社　郡ノ東南ニ高椋郷アリ事ハ旧地部ニ出ス

大湊神社　足羽記曰今安島浦雄島明神是也三尾君等祖神也今此云雄島三尾大明神

再按スルニ當社ニ三保明神寄進書ナル者アリ文武天皇勅願ノ由ヲ載ス不経ニシテ信シ難シ但其文中ニ曰神領方角界東限小山峯南界兵法塚炭墓蛇口具字岩西涯滄海汐圍北界今見河之向窪此内嶺ニ谷ヽ松原陳岡迄トアリ蓋古此事アルカ天正ノ賊火ニ回禄セリト云社領今二十石祭日二月廿日土人弓矢ヲ献ス

絲前神社　郡ノ西糸碕浦祭ル神應神天皇ノ妃糸媛ノ神ト足羽記ニ云ヘリ

都那高志神社　阿治波世神社　井口神社　楊瀬神社　比古奈神社　枚岡神社　伊伎神社　石田神社　味坂神社　笠間神社　家津神社

共ニ今考ル事ヲ得ス以上延喜式

豊原白山權現　丸岡ノ東山中ニ在本宮祭ル神伊弉冊尊（本地十一面観音）別山宮伊弉諾尊（本地正観音）大巳

貴宮本地阿弥陀仏火宮本地不動尊新宮本地薬師如来西宮本地大日如来下宮八幡大神多門天宮以上豊原白山八社権現ト称ス奥院ヲ深蛇大将神ト称ス大宝二年神融禅師ノ開ク処初禅師越知山ニ在テ紫雲ヲ此山ニ見ル乃来リ尋ミレハ池中ノ石ヨリ生ス禅師其祥地ナルヲ知テ寺ヲ建テ薬師ヲ安置シ及八祠ヲ作ル其像皆自彫スル所ナリ天長中當山ノ位持昌滝神ヲ化生嶽ニ見ル今其地ニ碑アリ銘曰于時天長深蛇大王化生地三月十五日ヲ祭日トス又天長九年六月八日初テ薬師ノ講ヲ修シ

陁弛欤

貴賎群ヲナシ商賈市ヲナス豊原荒廃ノ後此市九岡ニ移シテ毎年六月及十二月八日ヲ以テ市ヲナス歴年寖久ク祠廟頽陁ス天治元年ニ及テ本州ノ守藤原以体事ハ名官部ニ出ス重テ修理シ荘園ヲ寄附ス堂塔五百餘宇ニ及フ寿永二年木曽義仲平氏ヲ篠原ニ敗テ後本州河合荘及加州山代荘ヲ寄附ス其後足利氏新田氏ニ勝テ後本郡西長田小枩領家粟森田島ノ五村ヲ増附セラル明徳二年斯波義重長畝郷ノ半ヲ割テ當山ニ増附ス應永十九年斯波義淳織部荘ノ内士田廣野ヲ以テ深蛇王ニ寄附ス天正中賊師七里

三河守及下間筑後法橋頼清此ニ據ル織田氏本
州ヲ平治スルニ及テ盡ク伽藍ヲ燒亡シ是ヨリ
荒廃ノ地トナル慶長中越前黄門秀康卿本州ニ
封セラルニ及テ重テ八祠及ヒ講堂等ヲ修シテ
学頭華藏院ヲ以白山ノ別當トシ五十石ヲ寄附
セラレ其后清凉院殿ヨリ三十二石五斗增附セ
ラル事ハ仏宇部ニ載ス

長畝八幡宮　丸岡ノ東北長畝村ノ東ニ在齊藤
実盛カ尊奉セシ神ナリト云寛文中丸岡ノ城主
本多飛騨守重照新ニ神宮ヲ修シ神領百石ヲ寄
附ス末社十六別當ヲ中臺寺ト云

神祖廟　丸岡ノ東高岳寺ノ後山上ニ在先君嘉
祥公命ヲ奉シテ日州縣城ニ奉祀セラレシヲ
移封ノ後此所ニ移シ奉ラル高岳寺ノ事ハ佛宇
部ニ出ス

北潟牛頭天王祠　郡ノ西北々潟浦安楽寺ニ在
事ハ仏宇部ニ在同所白山祠平相國清盛社領ニ
百石寄附アリシカ平氏亡ヒテ廃スト云

吉田郡

吉野藏王權現祠　松岡ノ南吉野山ニ在僧泰澄

和州吉野ヲ摸シテ勧請スト云事ハ山川部ニ載
ス

重立白山祠 稲岡ノ東北重立村ニ在朝倉景勝
建立スト云

古市八幡祠 森田郷古市村ニ在寿永二年木曽
義仲奉祀スト云

八重巻白山祠 森田ノ西北八重巻村ニ在僧泰
澄ノ勧請事ハ山川及仏宇部ニ在

矢放大明神 八重巻ノ西河合鷲塚村ニ在

右ノ餘後世置所ノ神祠今詳ニ載スル事ヲ得
ス

續日本紀 文武天皇紀曰慶雲三年八月越前國言
山災不止遣使奉幣部内神救之
又今皇帝紀曰延暦十年九月断伊勢尾張近江美
濃若狭越前紀伊等國百姓殺牛用祭漢神

日本後記 桓武天皇紀曰延暦二十年四月令越前
國禁断屠牛祭神

三代實録曰貞観十三年六月勅東山北陸山陰山
陽南海道諸國 班幣境内名山大沢諸神并轉讀大
般若金剛般若等経祈甘雨

日本紀略曰延喜十年二月授越前國天氏神楊田神並從五位下

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan